ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E111B018	道徳の指導法 (Methodology of Moral Teaching)		対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	2	2	教育学部	前期	月1	日本語		単独

担当教員	氏名　吉野　敦 E-mail　ayoshino@oita-u.ac.jp　内線　7539
授業の概要	本授業では、道徳教育史や倫理学など道徳教育の基礎となる理論的知識を幅広く学んだうえで、学習指導案作成や模擬的な授業実践の相互批評等を通じて、学校での道徳教育を担うための実践的知識・技能を身につけることを目指す。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	学校での道徳教育全般や各種指導法を支える基礎理論について説明できる			○					
目標2	現代日本の社会状況にてらして道徳教育の課題と意義を説明できる		○	○					
目標3	指導法上の工夫を取り入れた道徳科学習指導案を作成できる			○	○				
目標4	道徳科授業を構想し、相互に批評・アドバイスしあうことができる				○	○			
目標5									
目標6									
目標7									
目標8									
目標9									
目標10									
	各DPへの関連度（計10）		4	2	2	2			

授業の内容

1	導入：道徳教育はなぜ大事なのか
2	道徳の倫理学的基礎づけ
3	日本の学校における道徳教育の歴史と今日的課題
4	学校における道徳教育の目的と内容
5	道徳教育の指導計画
6	道徳科学習指導案作成の手引き
7	道徳科における評価の意義
8	道徳の指導法①：道徳性の発達理論とモラルジレンマ授業
9	道徳の指導法②：問題解決的な学習
10	道徳の指導法③：道徳的行為に関する体験的な学習
11	道徳科教材研究①：定番教材の吟味―小学校編―
12	道徳科教材研究②：定番教材の吟味―中学校編―
13	現代の教育課題に道徳教育はどのように応答できるか
14	授業実践および授業分析①：授業実践
15	授業実践および授業分析②：相互批評

アクティブラーニング			その他の工夫	
	A:知識の定着・確認	○	学習指導案作成、グループでの討議、模擬授業の実施および相互評価	必要に応じてMoodleを活用する。
	B:意見の表現・交換	○		
	C:応用志向	○		
	D:知識の活用・創造	○		

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	配布資料、参考文献等の予習（5h）。学習指導案作成および模擬授業の準備（20h）。
	事後学修	配布資料を用いた復習（8h）。模擬授業の相互評価活動（2h）。小レポート作成（10h）。
	想定時間合計	45

教科書	特に指定しない。適宜、参考文献や資料を指示・配布する。
参考書	文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科　道徳編』 （以上の文献は、必要に応じて文科省HPから参照します）

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小レポート	30%	○	○								
	学習指導案	60%			○							
	授業実践・指導案への相互コメントシート	10%				○						

注意事項	
備考	
リンク	
URL	